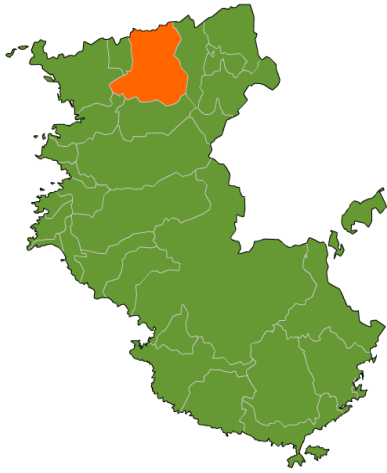


# 和歌山県紀の川市

## 紀の川スイーツの開発



### 【地域の基礎データ】

人 口：62,682 人（平成 30 年 12 月末現在）

面 積：228.21 平方キロメートル

高齢化率：28.6%（平成 27 年 1 月 1 日現在）

産 業：農業（桃・柿・キウイ・いちじく） など

観光資源：貴志駅（たま駅長）、青洲の里、粉河寺 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：7 名（1 回生：7 名）

活 動 期 間：平成 30 年 5 月～

担 当 教 員：竹田明弘

### 1. 活動実施の経緯

紀の川市は、もも、イチゴ、はっさくなど県内屈指のフルーツ王国としての顔を持っている。また、同市内にはめっけもん広場という農産物を販売するファーマーズマーケットも存在する。このように生産・販売ベースでは一定の実績がある。近年では、これらの実績をふまえて、紀の川フルーツツーリズムというプロジェクトを立ち上げ、フルーツ王国として知名度を県内外に高めるための活動を行っている。これら紀の川市の一連の活動を考慮し、本活動ではフルーツを使用したスイーツを開発することで、紀の川市に貢献することを目的として実施された。

### 2. 活動の内容

上記の問題意識をふまえて、ここでの具体的な活動内容は、株式会社 藤桃庵、MAISON FLEURIR の 2 店舗のそれぞれと共同で顧客評価の高いスイーツを開発販売することである。各店舗に提案するスイーツは単なるブレインストーミングによるものでなく、マーケティングの基礎知識をもとに、実際に人気店の事例調査、SNS サイトなどの統計解析なども行った上で実施する。活動はおおよそ以下のスケジュールで実施した。

5 月～7 月 マーケティングに関する基礎学習

7 月～9 月 人気店の現地調査

10 月 食ベログランキングを利用した統計解析

10 月～ 分析結果をふまえたスイーツ開発

11 月～ 共同開発店舗との打ち合わせ

- 2月 完成品の試食・評価
- 3月～ 最終商品の確定・販売

### 3. 活動を通じて

紀の川市役所、株式会社 藤桃庵、MAISON FLEURIR の協力により、活動は比較的順調に進行した。また、本活動では5月～2月の学期中、ほぼ毎週1度、ミーティングが行われた。学生はこれらのミーティングに参加するだけでなく、積極的に情報収集し、課題についてのディスカッションも行われた。

プロジェクトを開始するにあたって、マーケティングやデータ分析の技法などの基礎学習も行った。プロジェクトメンバー全員が1年次生ということもあり、基礎学習のフェーズでは苦労したと思われるが、一生懸命学習しようとする姿勢が見られた。また、学生は製菓の専門技術を学んでいるわけではない。どのような素材を組み合わせたら美味しいスイーツが開発できるかという点では不十分な側面もあった。ただし、これについては当然であり、次年度以降の課題としたい。

本活動を通じて、成功する商品を開発するためには、単に意見を出し合うのではなく、データやエビデンスに基づいて思考することが重要であるという思考のプロセスを少し学習したと思う。また、自らが提案したスイーツが実際の商品として開発され、店頭に並ぶまでのプロセスを経験することによって、商品開発の基礎知識や課題について学習したと思う。今後の学生生活における学習につなげて欲しい。

最後に、学生はまだ未熟な点もあり、不十分な側面もあったと思うが、紀の川市役所、株式会社 藤桃庵、MAISON FLEURIR のサポートによって、実際の商品の開発まで結びつけることができた。関係の皆様には謹んで感謝したい。

### 4. 成果物など

株式会社 藤桃庵、MAISON FLEURIR の2店舗で発売される商品が最終成果物になる。ただし、製品の発売はスイーツの購入が増加し始める3月以降を予定しており、当初からその計画で本活動は進行された。本報告書執筆時では、候補商品の試食と修正のフェーズである。従って、最終的に販売されるスイーツがどのようなものになるかについては未確定な状況である。現在、藤桃庵では、3月～6月の期間で異なるイチゴパフェ(合計5商品)を販売する計画を立てている。FLEURIR では、3月にイチゴを使用したパンベースのスイーツを販売する計画を立てている。

